

令和7年度 武蔵野市特定非営利活動法人補助金交付事業報告シート

団 体 名	特定非営利活動法人チャイルドラインむさしの
アドレス(HP、X、FB等)	https://sites.google.com/view/childline-musashino
事業の名称	受け手継続研修
事業の目標	1、受け手の質の維持、向上のために研修を実施する。 2、公開講座の開催により、市民と共に子どもが生きやすい環境を作ることを目指す。
事業の内容(概要) いつ、どこで、誰に、何を、どうした	1、4月13日(日)西久保コミセン ワーク(ロールプレイ) チャイルドラインむさしの担当 2、5月11日(日)西久保コミセン 講義「思春期の性」 講師:村瀬幸浩氏(日本思春期学会名誉会員) 3、7月13日(日)西久保コミセン ワーク(ロールプレイ) チャイルドラインむさしの担当 4、9月21日(日)西久保コミセン 講義「自殺予防としての傾聴」 講師:高橋聡美氏(医学博士) 5、10月26日(日) 講義「いじめ・虐待・不登校」 講師:竹村睦子氏(スクールソーシャルワーカー)オンライン 6、11月8日(土)西久保コミセン 講義「子どもたちの現状・家族の問題」 講師:寺出壽美子氏(NPO 法人日本子どもソーシャルワーク協会理事長) 7、12月6 日(土)西久保コミセン ワーク(ロールプレイ) 講師:寺出壽美子氏(NPO 法人日本子どもソーシャルワーク協会理事長) 8、1月25日(日)武蔵野スイングホール スカイルーム 公開講座「いじめ見えていますか?—SNS という人間関係の中で子どもたちは—」 講師:須永祐慈氏(NPO 法人ストップいじめ! ナビ副代表) 9、2月15日(日)西久保コミセン 事例検討 チャイルドラインむさしの担当 10、3月15日(日)西久保コミセン ワーク(ロールプレイ) チャイルドラインむさしの担当 対象:受け手、研修生 8の公開講座は受け手、研修生、会員、一般市民 5は東京のチャイルドラインとの合同研修
事業の成果(参加人数、実施回数、質など具体的に記入。)	○研修はスケジュール通りにすべて実施することができた。 受け手の質の向上のために、現在の子どもの話の内容から必要な講義と実践的な受け方のワークを1年間に亘って実施した。「死にたい」と言う子どもが増える中で自殺予防の研修に力を入れた。講義、ワークとも毎回充実した研修となり、子どもたちの現状や対応の仕方の理解が進んだ。コロナ禍以降は、複雑で難しい内容が増えているが、子どもたちへの対応は冷静に丁寧にでき研修の効果が出ている。 ○公開講座 参加者:23名(一般の参加者は8名) おとなからは見えない SNS という人間関係の中で子どもたちがどのように過ごしているのかがよく分かった。SNS によるいじめの実態とその影響、周りのおとなができることがよく理解でき、子どもの現状の理解が進んだ。 一般の参加者は子ども支援者や保護者でそれぞれの場で活かしてもらえると期待できる。 グループトークの実施で参加者同士の交流が図れた。
目標の達成度 (自己評価)	☒ 1. 達成できた ☐ 3. あまり達成できなかった ☐ 2. ある程度達成できた ☐ 4. 達成できなかった

令和7年度 武蔵野市特定非営利活動法人補助金交付事業報告シート

自己評価の理由 ※公益性の増進、団体の発展性、実効性、補助金を除く資金調達の達成度などについて、具体的に記入。	○社会の変化が早くそれに合わせたように子どもたちの話の内容も変化するが、現在必要な講義やワークを1年を通じて実施することで、難しい内容にも対応し寄り添うことができ、受け手の質の維持、向上が図れた。 ○公開講座には一般から8名参加があり、チャイルドラインむさしのの存在と活動について知ってもらうことができた。また参加者同士の交流も図れた。 参加者は子ども支援者や保護者が多かったので、講座の内容をそれぞれの場で活かしてもらうことで、子どもたちの生きやすい環境作りが進むことが期待できる。
今後の課題・抱負	○さらに多岐にわたると思われる子どもたちの話に対応していけるように研修を継続していく。 ○子どもたちの現状を市民に伝えるだけではなく、共に子どもたちを支えていけるように公開講座や交流の場を作っていきたい。

活動状況について



令和8年1月25日

公開講座 いじめ、見えていますか？PartⅡ－SNS という人間関係の中で子どもたちは－